

武寧王（1/2）

～日韓の夢つなく 加唐島と百済武寧王～

東松浦半島最北端の波戸岬から北へ3.5キロの玄界灘に浮かぶ加唐島。人口200人。島の2つの集落を除き断崖絶壁をなし、特に北岸の玄武岩の柱状節理は、壮観である。郷土唐津は、古代中国の魏の人が玄界灘をへだて「末盧国」と呼んだように「クニ」として大陸との交通窓口であった。

島の地名の起こりにも「各羅」「加韓」「各韓」「韓島」などの地名が古い文書に散見しており、オビヤ、ハシロイの鼻、エヌオ（胞衣）の鼻、オンス・メンスなどの意味不明なカタカナ語の地名からも朝鮮や大陸とのつながりが推測される。そして新羅遠征の途中、応神天皇を身ごもりオビヤ浦で神功皇后が着帯式を行ったという伝説も残っている。

またこのオビヤ浦は島南西部西岸にある海食洞で百済王が産湯を使ったという井戸も近くに残され、武寧王生誕伝承地となっている。

別名オビヤ浦を「帯祝浦」とも書く。

この島の裏側の早春に咲く火のように燃えさかる2万本の椿が有名である。

■『日本書紀』による武寧王伝説

『日本書紀』14・雄略天皇（461）の条に斯麻王の各羅島生誕譚として次の記述がある。夏四月、百済の加須利君（蓋鹵王）は、天皇に貢上していた池津姫が不祥事を起こし焼き殺されたことを聞き、礼を失したので、これから女官を貢ぐのはやめ、弟・軍君（昆支）に告げて言った。

「お前が日本に行って天皇に仕へよ」と。軍君は答えた。「王命にさからうことはできません。王妃と私と一緒に行かせてください」と願い出た。加須利君は、身ごもっている妃を軍君に与えたが、妃は既に産月になっていたので、もし途中生まれたら母子を速やかに返すよう命じた。6月1日、果たして婦は筑紫の各羅島で出産。島で産まれたので嶋君といい、母子ともに百済へ送り返した。

これが武寧王となった。百済の人々はこの島を主島（コリヌセマ：王の島）と言った。7月には軍君は京に入った。すでに5人の子供がいた。同様の内容が韓国の「百済新撰」にも記載されている。

～2/2へつづく～

分野 歴史

地域 鎮西

◎地図・写真・統計資料など



武寧王生誕記念碑

百済25代王武寧王の生誕地記念碑
紹介（2006年6月25日加唐島に建立）

百済武寧王陵のアーチ型と博壁のデザインから記念碑である事を表現した。この記念碑の石は百済の故郷イクサン（石を2ヶ使い、組み立て日本と韓国、唐津と広州の両土城の友好交流を象徴するもの。また、本体はひびく光と瑞氣を表現し、百済文化の継承・発展・活性化を象徴するものである。

（唐津新聞社より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『西日本文化 No.432』
- ◆『まるごと加唐島：武寧王交流』唐津市実行委員会
- ◆『鎮西町史上巻』P799～800

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

<h1 style="text-align: center;">武寧王（2/2）</h1> <p style="text-align: center;">～日韓の夢つなく 加唐島と百済武寧王～</p>	分野	歴史
	地域	鎮西
<p>～1/2からつづく～</p> <p>■倭国と百済国の交流</p> <p>284年、百済から日本へ馬2頭が贈られ、369年には百済との正式な通交が始まった。405年に王仁博士が「論語」と「千字文」を伝え、513年には扶余を都と定めた聖明王の（武寧王の子）が仏教を伝えるなど、日本の先進文化の受容に大きな役割を果たしている。また、三国時代には倭の軍事援助で百済国の体制を維持するなどつながりは深い。</p> <p>1971年、韓国公州市宋山里で未盗掘状態の武寧王陵が発掘された。埴（レンガ）で築いた墓室の王陵（円墳）から発見された墓誌石（買地券）には、寧東大將軍（梁王朝からの軍号）武寧王、斯麻王が62歳で没したことが銘文に刻印されている。武寧王陵には、金冠や青銅器などの高品質の百済の置物などが副葬され、王陵自体は、中国南宋の埴築墳の構造をとっており、多数の陶芸品も出土した。また、王と王妃の棺には、高野槨（日本にのみ野生）を使用するなど、国際性の高さをうかがわせる。この王陵の発見は、「日本書紀」にある武寧王の生誕地が加唐島であることを証明するもので日韓に大きなセンセーションを起し、韓国のKBSテレビ、マスコミ、学者などが大挙して加唐島へ足を運んだ。その交流の中から韓日伝統文化協会会長の趙萬斎氏や韓国史学発表となった文暲鉉教授（慶北大学史学科）と出会い、今日を迎えている。</p> <p>平成12年（2000）5月、文教授は「百済王武寧王の出自について」発表（韓国史学研究60号）。墓誌石から韓国の正史「三国史記」百済本記と「日本書紀」を比較考察と合わせ、王と王妃の日本固有の樹木を使った棺、当時の百済と倭国の関係から日本書紀の記述を裏付けるものとなった。</p>	<p>◎地図・写真・統計資料など</p>	
		<p>◎引用・参考文献（出典）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆『西日本文化 No.432』 ◆『まるごと加唐島：武寧王交流』唐津市実行委員会 ◆『鎮西町史上巻』P799～800
	<p>◎もっと詳しく知りたい方は</p> <p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</p>	